

とままえ

2

No.594



風かおる
人が輝き
躍動するまち



まちひと百景

何ができるかな？

1月31日(月)家庭教育サポート企業である橋場産業株式会社が平成19年度より毎年公民館前に雪像を設置し、子ども達を楽しませている。

今年も1月17日から型枠を設置、準備を進め、31日から本格的に雪像づくりを行っている。

全国的にインフルエンザが流行しているが、この雪像の元で苫前っ子が寒さに負けず元気に遊んでくれることを期待したい。

- ヒカルくんの体操教室ほか・・・2
- ブックカバー寄贈ほか・・・3
- 平成23年成人式・・・4
- 子どもかるた大会ほか・・・5
- 健康ばんざい・・・6
- 国民健康保険ガイド・・・7
- 国民年金・川柳・・・8
- 学びの広場・・・9
- 住まいる情報・・・10～11
- ちびっこギャラリー・・・12

まちの人口

人口/ 3,618人(男/ 1,699人/女/ 1,919人)
世帯数/ 1,632世帯 (1月31日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>



ヒカルくんの体操教室 ～平成22年度スポーツ選手活用体力向上事業～



12月11日(土)スポーツセンターで文部科学省・(財)日本体育協会・町スポーツセンター主催のスポーツ選手活用体力向上事業、田中光さんの体操教室を開催、小学生以下約40名が参加し、体操競技を楽しんだ。

この事業は子どもの体力向上と身体を動かす楽しさ、スポーツのすばらしさを伝えることを目的に開催されており、講師の田中光さんは、アトランタオリンピックに出場、活躍された方で、現在は流通経済大学で准教授を勤め、幼年児教育、健康教育などを研究されているほか、年間で50校ほど小中学校を訪問、体操教室などを開催している。

この日も体操教室ということで、最初はおもちゃのチャチャチャなどのリズムに合わせて首や肩、腰など身体を動かすリズム体操を行いながら念入りに準備体操を行った後、マット運動(前転、開脚前転など)、とび箱(開脚とび)、鉄棒(逆上がり)がうまくなるコツとして実際に見本を見せたり、参加者の補助を行ったりしながら丁寧に指導した。

マット運動では「開脚前転のときには手の前でチョウチョをつくるとやりやすいよ」と例えを交えながら子どもでも分かりやすく指導するとともに、田中さんのデモンストレーションも行われ、側転からの後方宙返りなどを披露、参加者からは驚きの声や拍手が響いていた。

まとめで田中さんは「何事もあきらめてはいけない。できないことをできるようにするまで頑張ってみる。それを体操から学んでほしい」と子ども達に語りかけていた。



手作りおもちゃの楽しさを体験 ～「ゲームに負けないおもちゃの魅力」講習会～



子ども読書活動推進実行委員会(後藤たみよ代表)主催の「ゲームに負けないおもちゃの魅力」講習会が12月13日(月)公民館で、町内の図書ボランティアや羽幌町、留萌市の図書館関係者、町内一般住民などあわせて約30名が参加して行われた。

この講習会は、地域で活動する読書ボランティアのスキルアップを目的に企画されたが、多くの方々にもこの楽しさを共有したいという思いから一般住民を対象とした成人講座との共催で実施された。

講師は小樽市でドイツ製木製おもちゃ店「キンダーリープ」店長の杉本英樹さん。杉本さんは、車におもちゃを積んで道内を巡回する「移動おもちゃ屋」や、おもちゃの選び方の講演、出張遊び体験などを各地で展開して話題となっている方。

「遊びがかわれば子どもが変わる」と題して実際におもちゃの遊び方を体験、その良さを実感してもらう方法で実施、講師の前には様々な形をしたつまみきや幼児用のおもちゃなどたくさんの商品が並べられた中で実施された。

杉本さんは、最先端のおもちゃの寿命は約3ヶ月と言われているが、木製のおもちゃは一世代もしくは2世代、3世代使えるものもある。また、「ゲーム」とはルールと順番を守ること。すなわち相手の存在を認めることで社会性を育てることができる。そして「おもちゃ」とは子どもの遊びを引き出すことや、かかわりを育てる練習につながる」と述べた。

さらに注意点として、子どもがどのようなおもちゃでよく遊ぶかを日頃からよく観察するとともに、おもちゃを選ぶ際には店主に相談すること。そして、おもちゃの買いすぎには注意が必要とアドバイスをした。



留萌振興局長との懇談～とままえ町民劇関係者と懇談～



留萌振興局長の高田久局長の広聴活動の一環として本町で上演のとままえ町民劇「冒険者たち」関係者との懇談会が12月15日(水)公民館で開催された。この懇談は公演鑑賞案内を振興局長宛に送付したのがきっかけで、振興局長は用務で鑑賞できなかったが同局保健環境部長が鑑賞「すごくおもしろく、クオリティが高い」と報告したことから、管内での文化創造事業がどのように作られているかを知りたいとのことで実現、振興局長も「冒険者たち」ほか1作品のDVDを事前に鑑賞し、この懇談に望んだ。

懇談では、町民劇出演者・裏方1人ひとりから参加した経緯や苦労などを話し、振興局長も時折笑顔を交えながら約1時間半の懇談を行い、「皆さんの様々なお話を聞くことができ、素晴らしい取り組みに敬意を表したい。これからもよい作品を作してほしい」と述べていた。

町内図書取扱店からのブックカバーの寄贈



町内の図書取扱店である(有)マルキ小阪商店(小阪幸徳社長)と菊地書店(菊地暢代表)から町内小中学校及び公民館にブックカバーが寄贈され、12月21日(火)校長会の冒頭で贈呈式が行われた。これは、本町の学校、公民館図書室の充実を図るため、新刊図書の購入を4ヶ年計画で進める予定であることから取扱店同士が協議、子ども達のために行われているもの。

贈呈式では、菊地暢さんから町内小中学校校長と公民館職員にブックカバーが贈呈され、町内校長会長の八谷芳博校長より「子ども達が本を大切にすることを育てるとともに、PTA活動の活性化のために役立てたい」と謝辞を述べた。ブックカバーの取り付け作業は、各校のPTA活動として取り組まれる予定。

清酒「漁師の力酒」収益の一部を阿保保育園(阿)へ寄付 ~北るもい漁協若前青年部ほか~

留萌地区漁協青年部連合会が企画し、國稀酒造株式会社が製造した清酒「漁師の力酒(ちからみず)」の収益の一部を若前保育園(青木久美子園長)と古丹別保育所(川森のり子所長)に寄付、12月25日(土)両保育所で贈呈式が行われた。

このお酒は、原酒を船に1ヶ月ほど積み込み、揺られると味がまろやかになるといわれ、製造されているもので留萌管内で行われる主要イベントのほか、贈答用としてのみ一部販売されているもの。

若前保育園での贈呈式では、前日からの大雪で臨時休園だったが、北るもい漁協若前青年部の杉本武春部長より「子ども達が元気に育つよう教材などの購入資金としてお使い下さい」と述べ、青木園長に手渡された。



「町民と共に新しい若前町を創っていくため」森町長仕事始めの訓示



1月6日(木)役場大会議室において、職員ら約65名を前に森町長より年頭のあいさつと仕事始めの訓示が述べられた。

森町長は「近年、特に地域社会の最前線で住民サービスを担う市町村の役割と責任は益々重要になってきている。まちづくりの原則は「自分たちのまちは自分たちでつくる」ことで、そのためには小さい行政の方が適している。これからの時代は市町村が日本を支えられるような存在価値を持つことであり、今まで以上に民間の感覚でまちを経営することが必要である。これからは、今まで整えてきた基盤のもと、元気な若前町、豊かな暮らしの実感ができる若前町をつくるべく、町民と共に「新しい若前町」を創りあげ、「人が輝き、躍動するまち若前町」であり続けていくため、頑張っていこう」と述べ、職員の更なる奮起を促した。

今年の運試しは・・・商工会年末大売り出し抽選会

1月6日(木)、7日(金)に商工会年末大売り出しの抽選会が公民館と福祉センターで実施され、風雪の強い中にもかかわらず、多くの住民が今年の運試しを行った。

今年は、特賞が1万円の買物利用券が10本のほか、金賞から銅賞までが買物利用券、現金の当たる信金賞や聖徳太子賞、とまま温泉ふわっとのギフト券が当たるふわっと賞など多くの賞が設けられたこと、そして年末にプレミアム地域振興券が発売されたこともあってか例年より多くの町民が抽選会に訪れた。

箱に入れられた多くの抽選券から選びながら引き上げ、何賞が当たっているかを注目しながらワクワク感を楽しんでいった。



今年も無事故で・・・若前救難所出初式



1月6日(木)に日本水難救済会若前救難所(川村信介所長)所員19名が北るもい漁協若前支所市場内で出初式が行われた。

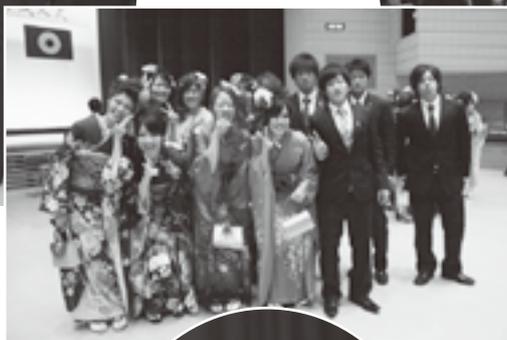
この日は朝からの荒天で従来行っている救命索発射銃(もやい銃)の発射訓練は実施できなかったため、人員点呼・報告のみを行った。

同支所会議室で行われた屋内式では、今隆北るもい漁協代表理事組合長や来賓として森町長などが出席して行われ、川村所長はあいさつで「昨年は本町において海難事故は無く、平成16年の事故から無事故2千日を達成することができた。これも日頃の事故防止活動やライフジャケットの着用などの啓蒙活動によるものであり、これからも無事故が続くよう訓練等に精進していきたい」と述べた。

未来に翔け

—新成人おめでとう—

平成23年苫前町成人式



1月9日(日)午後1時から公民館において平成23年苫前町成人式が行われた。今年の対象人数は、男性15人、女性20人の計35人で、この日は男女合わせて28人が出席、成人へ新たな一歩を踏み出した。

式では、新成人が1人ずつ「成人としての自覚を持ち成長していきたい」「就職するので、早く一人前になりたい」などと、一言ずつ成人への抱負を述べながらステージから入場した。

式辞で岡田裕幹教育委員長は、「若者の特権とは何か。恐れず突き進む勇気と新しい分野に挑戦する気概ではないか。権利を主張する前に義務と責任を果たすことが必要」「苦しいとき、楽しいときには仲間がいる。今までの仲間、新しい仲間と喜怒哀楽を分けあい、それぞれの人生を切り開いてほしい」と激励した。

続いて新成人を代表して、初山憂気さんと水野めぐみさんが、「両親をはじめ、多くの方々から感謝します。社会は今、非常に厳しい状況であり、幾多の困難があると思うが、この町で学び、育んだ精神で自分を磨き、乗り越えていきたい」と力強く宣誓を行った。

祝辞として森利男町長からは「大人の社会においては、価値観の異なる様々な人がいろいろな形で関与している。皆さんもこれから携わる職業を通じ、気持ちが折れそうになったり、挫折感を味わったりといった厳しさを経験するかもしれないが、自分自身の進化と可能性を信じ、強い気持ちを持ち続けてほしい」、星野恭司町議会議長からは「自分のことだけでよい、他人のことはどうでもいいという考え方では、誰一人幸せにならない。新しい世界の中で感性を磨き、人との出会いを大切にしたとき、世界は明るく希望に満ちたものになる」とエールを送った。

意見発表では、新成人を代表して小澤春菜さんが「本当にこれが自分のやりたいことなのかと悩むこともある。しかし、自分なりに答えを見つけ特別支援学校教諭を目指して日々勉学に励んでいる。本当にたくさんの方々から支えられて、ここまで成長することができた。未熟で頼りない部分もあるが、一人の大人として自覚を持ち責任ある行動と生活をしていけるよう頑張りたい」と堂々と意見発表を行った。

この後、実行委員会製作の小中学生時代の写真上映、お祝いメッセージとして元苫前中学校の出野浩司先生が駆け付け、お祝いの言葉として「きみたちの立派な姿を見て、とても感動している。これからは、成人としての責任と自覚を持ち、しっかりと頑張してほしい」と成長した元教え子たちに述べていた。